

電動アシスト自転車にかかる普及・実証事業 株式会社リード技研(神奈川県)

ミャンマー国の開発ニーズ

- 外国直接投資は、裾野産業、関連中小企業が脆弱で、産業の集積・高度化が課題
- 将来の電動自動車等の基礎技術を具体的かつ早期に習得できる製品の導入が必要

普及・実証事業の内容

- 工業省により技術移転を受ける30名のミ国技術者を選ぶ。
- 日本型の製造技術を学ぶとともに、ベトナムで製造した部品を使い実証試験用の200台を組立て、技術移転を行う。
- 協力企業(4グループと想定)と200台を使い実証試験を実施。
- 実証試験で得られた内容を踏まえビジネスプランを構築する。

提案企業の技術・製品



製品・技術名

電動アシスト自転車

- ・ ヤンゴンにおける交通規制に準拠し20 km/時以下でのアシスト機能
- ・ 十分な環境配慮
- ・ 運転の安全性向上

事業概要

相手国実施機関:

工業省 重工業第3公社

事業期間:

2018年12月～2020年7月

事業サイト:

ヤンゴン

ミャンマー国側に見込まれる成果

- ミ国に適した電動アシスト自転車の製造技術の有用性が実証される。
- 電動アシスト自転車製造の基本技術が移転され、今後の技術移転の課題が整理される。
- ビジネスプラン(中期的な高度化のロードマップを含む)が整理・検討される

日本企業側の成果

現状

- 環境意識向上に伴う電動アシスト自転車需要に応える製造拠点ができる。
- ミ国の若手技術者とのネットワークが形成され多方面の展開を行う。

今後

- ASEAN各国とも連携し、電動アシスト自転車の輸出競争力を高める。
- 電動三輪車、電動四輪車等の高付加価値製品への展開を行う。